

事業テーマ：「フルオーダーメイドのウェディングケーキ」製作サービスの実現

事業者名：有限会社パルファン

事業年度：平成26年度

Case

5

革新的サービス

ウェディングケーキをフルオーダーメイドで提供する新サービスを開発

ウェディングケーキは職人の手作り工程が多く、オーダーメイド実現のためには、ケーキの製造時間短縮が必要であった。そこで溶岩窯など食品製造設備の刷新を行なった。パティシエが顧客の希望イメージを確認して製造まで担当するなど、業界でもユニークな取組みが着目されている。

企業概要



1959年に創業し、ケーキや洋菓子の製造と販売を行っており、横浜市内に工場と喫茶スペースを併設した店舗と販売中心の店舗2件を構えている。また公的施設の談話室の運営を受託している。主力事業は、結婚式場やホテルなどへのケーキの卸売で、特に土日を中心としたウェディングケーキなどのブライダル対応がメインとなっている。ウェディングケーキはイミテーションと考えられることが多いが、当社は、挙式者が考えたデザインをほぼ全て本物の特注によって製作している。

有限会社パルファン

代表取締役 蓮本昭浩

設立年月

本社 〒231-0023
横浜市中区山下町201
工場 〒232-0033
横浜市南区中村町4-281-5

15人

300万円

045-681-1276

食料品製造業

取材の現場から

パティシエの仕事は一見華やかなイメージを持つが、職人仕事で体力を使うなど重労働の一面もある。憧れを持ってパティシエになっても諦めてしまう若手も多いという。当社は新卒採用でパティシエを採用して中長期的な人材育成や、技術継承のための労働環境改善にも早くから取り組んでおり、人事労務管理は顧客ホテルからも評価を得ている。



導入した食器洗浄機



左/代表取締役の蓮本 昭浩氏 右/職人の手作業によるウェディングケーキの製作

新型コロナウイルスによって結婚式需要が激減し、当社は苦難の中にあります。オーダーメイドのウェディングケーキも受注が入らない状況ですが、アニバーサリーニーズという点では卒業式の記念ケーキといった派生した注文も出てきています。また現在、特別な日をより演出できるようフルオーダーメイドを進展させ、お客様がパティシエと一緒にウェディングケーキを製作する事業を計画中です。このようなサービスを実現できるのは、お客様の構想を具現化できる職人の技術があるからです。実は、設備投資で生産効率は高まりましたが、機械化によって手描きなどの技能が低下してしまったことも事実です。私たちが提供する商品は職人の手作り感が喜ばれるので、効率を追い求めるだけではなく技術力の継承や人材育成とのバランスを第一に考えています。

で機械化したり、フードプリンタによって手描き作業の削減も行いました。このような取組みによって製作時間を1時間20分短縮でき、新サービスの準備が整いました。

深刻な新型コロナウイルスの影響

当社はケーキと洋菓子の製造販売を行なっています。主力事業は、結婚式場やホテルへのケーキの卸販売です。特にブライダル需要が多く、ウェディングケーキを得意としています。ベースとなるデザインはお客様が数種類の中から選択し、デコレーションの要望に応じて特注しています。ケーキは全て異なりますが、デザインの基本は同じという点ではセミオーダーメイドでした。そこでさらにお客様の要望に近づくフルオーダーメイドの実現を目指したのが補助事業です。パティシエが式場でお客様との相談に乗って希望のデザインで作るので、特別感のあるウェディングケーキです。

ケーキの製作は職人仕事です。手間と時間を増やすことは生産性を低下させるので、接客時間捻出のためには製造時間の短縮が必須でした。そこで、溶岩窯のオーブンを導入して焼き時間を短縮、一度に焼成できる数量も増やしました。そのほか手作業だったパイ生地の手折込みをスーパースター

特別な日をケーキで演出

補助事業のきっかけ

- ・ブライダル業界は少子化や晩婚化、未婚化などにより婚姻件数が減少傾向にある。
- ・当社は結婚式場やホテルにケーキを卸販売しており、今回長年取引のあるホテルとともにブライダル市場を活性化するためのサービス開発を行なった。

事業計画の概要

- ・フルオーダーメイドのウェディングケーキを実現することを目標とした。
- ・オープンや器具洗浄機、フードプリンタ等の設備を導入し、製造プロセスの改良を行なった。
- ・ウェディングケーキの製造時間短縮とともに時間あたりの製造量を増やすことができた。

事業化状況

- ・新サービスに特に理解のある横浜市内のホテルとともに事業を展開し、ビジネスモデルとして軌道に乗り次第、他の取引先へ展開を予定していた。
- ・先行して展開したホテルでの受注は好調で手応えを感じていたが、2020年に入ってから新型コロナの影響で需要が消滅している状況。今後の需要回復を待ち望んでいる。